



TITLE:

質疑欄

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑欄. 天界 1922, 2(16): 65-65

ISSUE DATE:

1922-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159668>

RIGHT:

(J. Stebbins)氏は今回ロムストク(G.C. Comstock)氏の後をついで、ウチシバアン天文臺長となつた。同氏は一九〇八年以來、セレンウム光度計や光電光度計を天文觀測に用ゐた最初の人で、之れによつてアルゴールの第二極小光度を發見した有名な新進學者である

### 質 疑 欄

〔四〕 我太陽系の移動はヘルクレス星座又は琴座織女の方何れに向つて進んで居るのですか(GY氏)

(答) 一九一〇年頃ボッス氏が決めた結果では、赤經十八時二分、赤緯北三十四度三位、即ちヘルクレス座の一端で織女の西南十度足らずの方何れへ進行して居ることになります。これ等ばかり信用してよい結果でせう。

人によつて太陽系の進む方向が少し違つて書いてあるのは、其推算に使つた恒星の運動の大きさやスペクトルの種類によるので、やかましく言へば、どういふ材料を使つて勘定した所ではこんな結果になるさ一々こさわるより仕方ありません。しかし大抵織女の近傍といふことになつて居ます(KK)

〔五〕 邦文の球面三角法に關する初學者に適當な良書(GY)

(答) (一)須永興平述、上野清校閱「球面三角法講義」(二)松村定次郎著「新撰三角法」(一)は大體トドハンターの本によつたらしく、色々幾何學的な性質や問題など詳しく書いてあります(修學堂發行、價一圓半位か)。(二)は博文館百科全書第六二編で平面三角の次に球面の部が説いてあります。單に球面三角法の基本定理を知るだけならば(二)でも充分です(KK)

〔六〕 一般星學に關する英文の見參考書(TM生)

(答) 一冊で星學全般をのせてある良書は少いやうです。

1. F.R. Moulton An Introduction to Astronomy. (Revised ed.) 1916

2. C. A. Young, A Text-Book of General Astronomy. (Revised ed.)

先づこの二冊がよいでせう。(一)は少し初歩的ですが仲々よろしい。價六圓半位(二)は少し最近の部分が足らぬかも知れませんが程度は(一)より少し高く有名です。一九一五年頃の發行のものは價八圓七八十錢。

これより詳しいのを御希望ならば各部門だけを説いた本を集めるかでもするより仕方ありません(觀)

〔七〕 若し變光星觀測をするにせよ眼の色盲検査の必要ありませんか。(TM生)

(答) あるでせう。例へば或色の色盲なら其色味をもつた星は弱くなるでせうし。光度の強弱變化はわかるにしても極大と極小で色の變る變光星の觀測などでは外の觀測者の結果と違ふかも知れません(KK)

### △△△△△ 奇拔な火星觀測法

米國アマアスト天文臺長トド博士の友人だといふBマカファイ氏の言であるさて、一外國新聞の報するところに據れば

「トド教授は、南米智利國チャニヤラン(Chañaral)にある或る鑛山坑では、一九二四年に度々、火星が其天頂を通過することを發見した。吾人は此の堅坑全體を望遠鏡の筒として使ひたいと思つてゐる。直徑は五十フィートある。ガラス鏡を作るのが困難なので代りに、直徑五十呎の平らかな鐵皿に水銀を湛えやう。此の皿は或一定の速度で回転させると、水銀面は丁度注文通りに凹面